

石高神社報

第二十四号

広報誌コンテスト特別賞受賞

石高神社報が神社本庁主催の社報コンテストで特別賞を受賞しました。この賞はこれから社報を発刊しようとする神社に対し、良い一例となるであろう二誌に対して、新たに設けられて与えられたものです。小規模神社の苦勞が理解されてうれしく思います。全国の神職に配布される広報誌にも、大きく取り上げられ、縮刷で掲載されました。

「岡山県・石高神社にて発刊の『石高神社報』も、官司一人で作成。内容については神社に関するものをはじめ、郷土の歴史や地理、遺跡と石高神社との繋がりを簡単なレイアウトで、構成、解説したものである。その配布は、総代はじめ地元町内会を通じて行っていることも、氏子区域内の交流といった観点から高い評価を受けた。」との講評でした。

町内を通じての配布が高く評価されています。現在四十町内に配布もしくは回覧をお願いしており、大変お世話になっていきます。改めてお礼申し上げます。最近は年末に発行していますが、これからも続けて行きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

社務所再建・隨身門修理

老朽化のため社務所が取り壊されてから二十年近くになります。その後、急を要する修理箇所が次々ときたため、再建が後回しになって来ていました。また、隨身門もシロアリ被害と一昨年の台風二十三号で本格的な修理が必要になっていきます。境内の土砂の流出により、石畳の崩壊や木の根の露出も進んでおり、挙げればきりが無いほど手を入れないといけない所があります。しかし、この規模の神社で社務所の無いところはまずありません。今年九月には、境内で事件が相次いだこともあり、管理面からも機能面からも再建が急がれます。費用面でも目途がつかまりましたので、社務所の再建を優先して行なうことにしました。同時に隨身門も必要ならば応急処置をとって次回の本格的な修理までもたせたいと考えています。社務所再建の費用は十年かけて蓄えてきた神御札の頒布収入を充てます。水道設備を除いた建築費用は一千万円ですが、今のところ予定額の約八割が貯まっています。

また、社務所再建と同時に隨身門修理の準備にも入る予

発行日 平成十八年十二月一日

発行者 石高神社 官司 高原 章兆

発行所 岡山市円山八五三

電話 〇八六・二七七・九〇〇三

定です。隨身門の修理見積もり額は九百万円です。社報二十二号で紹介しましたように隨身門は幣殿・拝殿と同じ江戸時代末期の造立です。歴史ある地域の遺産を引き継いで何とか修理して後世に伝えて行かなくてはなりません。今後二回に分けてご寄進をお願いしたいと考えています。なにとぞご協力をお願い申し上げます。

どんど祭り 一月十四日(日)

来年のどんど祭りは一月十四日(日)に実施する予定です。時間は例年通り十時からです。十一時ごろまでにはお参りください。当日はぜんざいのお接待をする予定です。なお、しめ飾りに付いているプラスチック類は、有害物質発生防止の観点からはずしていただいております。ご協力をお願いいたします。同時に古札焼却を行います。古い御神札やお守りなどは正月にお参りされた時にお持ちください。毎年八日ごろ祈禱の後、あらかじめプラスチック類と金属類をはずすようにしています。

また、当日のお接待の裏方やプラスチックをは



ずしたり、火の管理のお手伝いをしてくださる方を探しています。お接待に関しては、女性の方二〜三名が必要です。恐縮ですが、前もってご連絡くだされば、ありがたく存じます。

清掃奉仕のお礼とお願い

九月十七日(日)に、円山の皆様により高所作業車を用いて宮山周囲の枝を切っていただきました。また、市に持つて帰ってもらうために枝を小さくする作業を九月二十四日の町内の掃除の後に行いました。ご奉仕してくださいました皆様にお礼申し上げます。しかし、まだ枝切り作業ができていない箇所がありますので、十二月三日にもう一度実施することになりました。毎年十二月の第一日曜日には、宮山の下刈りや枝打ちなどの清掃作業を行っています。総代を通じて町内にお願いをしていますので、その節はご協力をお願い申し上げます。

また、昔と比べて木々が大きくなり、樹種も豊富になって、日ごろの境内の清掃量も増えていますが、一昔前のように定期的に清掃奉仕をしてくださる組織がありません。折にふれて奉仕のお願いをしましたので、何名か個人でご奉仕して下さっている方もありますが、まだまだ不足しています。家族の手だけではできなくなっております。お散歩のついででも結構ですので、日常的なご奉仕もよろしくお願い致します。

石高神社の御祭神

御祭神

大己貴命 おおなむちのみこと
須勢理姫命 すせりひめのみこと

配祀

仲哀天皇 ちゆうあいてんのう
神功皇后 じんぐうこうごう
応仁天皇 おうじんでんのう

由緒来歴

当社の創立年月はよくわかりませんが、現存する神名帳で一番古い備前国総社神名帳の綿抜本または総社本（八六三年頃）に石高神社と載っており、同山本本または八日市本（九三八〇九四七年頃）には正三位石高明神とあります。しかし、平安時代の諸制度を編纂した延喜式（九二七年）の神名帳には載っていませんので式外社（しきげしや）ということになります。当時備前の式内、式外古社は百二十八社あったと言われており、この内の一社です。

社伝によりますと、昔には今の宮山から北手にあります高倉山の頂上に大己貴命を祀る石高神社があり、今の嶽宇岩坪に須勢理姫命を祀る八幡宮がありました。この両社を天和三年（一六八三年）頃に現在の地に合祀し、岩坪八幡宮と称して尊敬していました。このため、江戸時代の書物には、八幡宮として載っています。

その後明治四年に旧号の石高神社に復し、幡多郷の総鎮守産土神と定められ、大正三年には村社になりました。幡多郷というのは、一七二一年編纂の備陽記によりますと、

清水・赤田・藤原・高屋・関・沢田・山崎・円山・湊の各村をさしており、当社は古代から栄えていた操山山系の北側や新たに開発された南側の人々の生活や湊方面を航行する船の安全を護つて来ました。

石高神社のおもな行事

歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後、または三が日の午前九時ごろから夕方まで新年の家内安全祈禱を行います。

どんど焼きおよび古神札焼却祭

一月十四日以降で最初の土、日曜日または祭日に行うことにしています。

厄払い

二月一日に厄歳、祝歳の方がお参りする習わしです。二月一日または正月三が日、一月中の休祭日にお参りください。

輪くぐり（夏祭り）

七月三十一日晚は茅の輪をくぐる夏祭りの輪くぐりがあります。六月三十日に行っていた夏越しの祓えと備後国風土記の蘇民将来の故事に由来する疫病封じがいつしよになった祭りです、年の前半の罪・穢れを祓い、疫病から身を守ります。事前に配布された「ひとがた」に家族の生まれ歳の干支、男女の別などを書いて身を払ってご持参ください。晩六時ごろから九時前までにお参りください。夜店も

出て賑わいます。

春祭り・秋祭り

春祭りは五月中旬に祭典のみ行っています。秋祭りは十月三日から五日まで三日間あります。本来は春に豊作をお祈りし、秋に収穫できたことに感謝してお祝いする祭ります。三日の晩が氏参りの日になっており、この日は夜店やはつぴ姿の子供達とで賑わいます。晩六時ごろから九時前までにお参りください。五日は祭典を行っています。

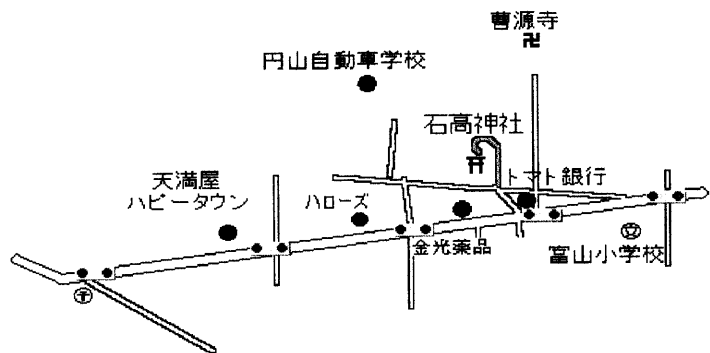
その他、七五三詣で、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭等随時致しております。宮司は学校へ勤めていますので、休みの日にご用命ください。

ホームページ

中国四国地方では早い方で、平成十二年に開設しました。宮司手づくりでひと味違った内容になっています。昨年から夏祭りと秋祭りの日の夕方更新して夜店の出店情報をトップページに提供してみました。必要に応じて細かい所を不定期で更新していますので時々見ていただければ幸いです。また、昨年から携帯用ホームページも追加しています。「祭りはいつ?夜店が出ますか?」という問い合わせが多いので、場所、祭りの日、電話およびその他の情報の四点に限って載せています。ホームページのアドレスは<http://www.31.ocn.ne.jp/~ishitaka> です。携帯用ホームページは下のQRコードをご利用ください。



石高神社の場所



神社の東側から裏へ回ると、自動車で神社の裏まで上がることができます。表には石段の参道があります。

後記

今回はお願いが多くなってしまいましたがお赦ください。裏面は前号とほとんど同じ内容ですが、石高神社の概略を紹介しています。今年も国内外でいろいろなことがありましたが、来年は平穏な年であることをお祈りします。